

## 日本語版へのまえがき

2008年5月、立教大学名誉教授の池田央先生より、『Handbook of Test Development』を、日本のテスト開発者のために日本語に翻訳中であることをうかがいました。この翻訳本の出版は、翻訳代理店のTaylor & Francis Group, LLC, NYを通じて、Lawrence Erlbaum AssociatesとThe Japan Institute for Educational Measurement, Inc.の間で同意されました。本書が、日本でこのように興味を持っていただけたことを知って大変うれしく思います。

### このプロジェクトの簡単な経緯

本書の作成には、興味深い経緯があります。Dr. Downing はかねてより図書の調査プロジェクトを行ってきましたが、そこで思ったことは、テスト会社の人事課の人たちによってもたらされる逸話的知見とか、種々のジャーナル、編集本、公的報告書、会議録など世界中で刊行され散在する調査研究以外に、テスト開発者がよりどころにできるような確固とした科学的ガイダンスがほとんど無いことでした。過去に多くのプロジェクトと一緒に仕事をしたDr. Haladynaは、このような本の必要性についてはやや懐疑的でした。Robert L. Brennanの編集による『Educational Measurement/2006』が進行中であつたし、それに比べて本書『Handbook of Test Development』は見劣りするよう思われたからです。2005年、シカゴでの全米教育測定協議会(National Council on Measurement in Education)の開催中に、このHandbookの2人の編者が長らく業務上の関連を持っていたLawrence Erlbaum Associates (LEA)社のLane Akers氏と会いました。Akers氏はLEAが様々な分野での、現代の最先端科学についての手引書(handbook)の出版に興味があることを話されました。Akers氏はこうした手引書開発のためのプロジェクトを遂行するよう私どもに働きかけました。

私どもはこれらのHandbookの内容構成と、どのように『Educational Measurement』と差異を持たせるか、ということから検討を始めました。このHandbookの基本的概念は、定評があり最も信頼のおける『Educational Measurement』を補完するという性格を持つこととしました。テストにかかわるすべての人にとって不可欠な参照資料である『Educational Measurement』は、理論に強く焦点を当てたものです。しかし同書は、テスト開発のあらゆる段階での効果的な実施に向けての実用性については、必ずしも十分な詳細を提供するものではありません。当「Handbook」は、このギャップを埋めることを意図しているということです。

2005年中に、すべての著者と査読者が特定され、その人たちの執筆担当章が割り当てられました。妥当性はこの本にとって、中核を成す原理、あるいは概念の枠組みです。『The Standards for Educational and Psychological Testing/1999』は、本書の各章の中に統合され、妥当性がテスト開発と測定行動のすべての中核を成すものである、という一貫性のあるメッセージが提供されています。

### 著者について

本書は、編者を含む46名の著者と共著者により作成されたもので、印税の問題はすぐに解決しました。私どもはすべての印税を全米教育測定協議会(National Council on Measurement in Education: NCME)に寄付することに決めました。収益はより良いテスト実践のための先導となるものを支援することに使われるでしょう。

私どもはこのプロジェクトの熱気と展望を分かち合い、本書を完成するために、貴重な仕事の時間を惜しみなく割いてくださったすべての著者や査読者に最大の感謝を持ち続けております。

## 本書の内容

合衆国での経験の範囲内ですが、私どもは、(1)基礎的情報、(2)テスト内容に関する議論、(3)問題作成、(4)テストのデザイン、(5)テストの制作と実施、(6)テスト実施後の活動についての概略を作り出しています。また、高く尊敬されテスト開発者として経験豊富な方による示唆に富んだエピソードは本書に重みを添えるものでしょう。

2006年の原版のまえがき(pp.5-8)には各章と節の概略と要点が書かれています。私どもは、日本の読者の皆さんがこのハンドブックの内容のオリエンテーションとしてこの序文に目を通すことを強く勧めます。

この『Handbook of Test Development』が、日本の読者の方々に有益な情報を提供し、テスト得点の解釈と使用について、より深い妥当性のある証拠が提供できるようなテスト開発の助けになることを願っております。

2008年7月

Steven M. Downing, Ph.D  
Thomas M. Haladyna, Ph.D

## 参考文献

- American Educational Research Association, American Psychological Association, and National Council on Measurement in Education. (1999). *Standards for educational and psychological testing*. Washington, DC: American Educational Research Association.
- Brennan, R. L. (Ed.). (2006). *Educational measurement* (4th ed.). Westport, CT: American Council on Education/Praeger.
- Downing, S. M., & Haladyna, T. M. (Eds.). (2006). *Handbook of Test Development*. Mahwah, NJ: Lawrence Erlbaum Associates.